

## 教員推薦図書 2022年12月

推薦教員	幼児教育科 津久井 康明 先生	<b>【推薦コメント】</b> 2016年から2年間という短い期間でしたが、私は東京都のユースソーシャルワーカーとして、都立高校で様々な課題を抱える生徒に対する支援を行いました。当時はまだ「ヤングケアラー」という言葉は浸透しておらず、現場で「この生徒はヤングケアラーである」というアセスメントをしたこともありません。しかし、今振り返れば、明らかにヤングケアラーであったと考えられる生徒はたくさんいて、その生徒と家族に対して、様々な支援を手探りで模索していました。 「ヤングケアラー」は、ここ数年で急速に社会に浸透してきた言葉です。今、家族の身体的介護や家事労働に追われ、様々な不利益や制限を受けてきたヤングケアラーを支援しようとする機運が高まってきています。これまで支援の手が届かなかった彼／彼女たちをカテゴリー化して支援の可能性を拓いたことは、それだけでも、とても重要な意義があると言えるでしょう。 そして、現象学を専門とする筆者が描くのは、ただ苦しむだけではなく、家族のことを強く心配（ケア）し、家族を気づかう優しい子どもたちの姿。彼／彼女たちの言葉に寄り添い、その力（ストレングス）に光を当てることで、新たなヤングケアラー像が浮かび上がってきます。「『私サイド』に立ってくれる大人」として彼／彼女たちに向き合うということ。子どもたちの語りを伝える筆者の眼差しこそが、私たちに求められる最も大切なサポートなのかもしれません。
書名	「ヤングケアラー」 とは誰か ～家族を“気づかう” 子どもたちの孤立～	
著者名	村上 靖彦 著	
出版社	朝日新聞出版社	
請求記号	369 / Mur	
資料ID	901123660	